



新古今和歌集

下

特別
~4
8062
3





新古今和歌集卷第十一

恋奇一

恋奇一

恋奇一

よきたのこもくやゆきまのつゝまや高き山の花は
とくにのこあるにやあのみりけは遠きまのう袖は

人麿

是のこもくやゆきまのつゝまや高き山の花は
とくにのこあるにやあのみりけは遠きまのう袖は

女よつらうら

在原業平御下

春日野乃よつらうら



足元のの波の音いつつめことなるるも海にぬる枝う
いづるおのむらうわるとせん

謙徳云

の衣袖よめいつめたまわつての光がみさこころ
たふねお光又名は舞姫をうらつとせん
てつうりりり

お大納言云

天保元春のゆきみ一人のが代おとをの志あそびつこ
つ道たかくゆかり女よ志うたのつこりつうりりり

徳徳云

わづまのゆよゆとてみうらと秋とみぬ道坂の園

帰川園白あまをいつりて里いつつこせれと

ひゆりきい
中院侍候

我宿のうこことふうとぬつこいそとよりとあゆかりやこ

返一
忠義云

わの息ひ元のうらうこぬお道は弁さうとむらうとせん

野一らに
貫之云

あつしとさ糖をまよゆらつとせとて姉のゆとせん

深春云

糖をひぬらぬと人あそび億ていぬれぬとのをさる

女よつうりりり
友原惟成

凡世の家は毎年の夕暮の光にあらはるる
又つらつらと女はあはれつらつらと
あはれつらつらと 菅原義孝

あはれつらつらと 菅原義孝
和泉武部

あはれつらつらと 菅原義孝
源光朝

あはれつらつらと 菅原義孝
大申信徳宣下

あはれつらつらと 菅原義孝
大申信徳宣下

あはれつらつらと 菅原義孝
大申信徳宣下

あはれつらつらと 菅原義孝
大申信徳宣下

あはれつらつらと 菅原義孝
大申信徳宣下

秋風よみよしてわささつとて萩の下ものみいかに
思まのひらら〜ゆりよつきて女のし〜つら
〜〜

花園たぐ

〜の恋も今いふもあな海舟のたれもとりみらさなり
和奇不濟合よ久思恋とらあま

横政ち政た

いそ〜の〜の神杖かりわさ〜と久よい出〜あ〜何あも
小野文濟合よ思恋のん

太上天皇

秋恋の萩の下葉よのりけあゆら〜袖のあよあや

百首奇も〜〜時〜

前大信正慈鎮

〜の恋の松とけあの後〜ては〜原よ風〜

家よ奇合〜約ら〜あま恋のん

折政ち政た

宣輝のう〜わや〜まの枯のあわめ〜袖と〜のよ

実蓮は師

〜のよき袖よ愛〜つ〜と〜やわ〜く〜は
水々〜と〜の〜と〜久〜と〜事〜と〜約

太上天皇

はたした袖をぬきわらわぬき草のうらむらぬきとて

八月六日馬門侍よりつづりしる

前大納言に任

をさきほりし侍もあやまらぬいづらぬよき侍

返一

馬門侍

八月五日宣おき進むるをさきほりし侍もあやまらぬよき侍

八月五日宣おき進むるをさきほりし侍もあやまらぬよき侍

八月五日宣おき進むるをさきほりし侍もあやまらぬよき侍

郭と新といふけし花のえまきしつらぬぬきとて

返一

馬門侍

子親はあつたおとこもまはらうてと都れはあつた

郭と新といふけし花のえまきしつらぬぬきとて

ふのこえまきしつらぬぬきとて

返一

侍

見よ後の浦よりさきほりし侍もあやまらぬよき侍

難波の浦よりさきほりし侍もあやまらぬよき侍

人磨

見よ後の浦よりさきほりし侍もあやまらぬよき侍

後人不知

うらむらぬきとて

人よりうら

友原信正

と後の浦もあはれいしひのた本のかきしり

影くらん

源宗明

あつたしをさしんしんすうははのまらむらうし我もあつたり

貫之

あーのらあさほひあはのらさけて人をあひ

そいのらあまきひさあまうつくとあは思ふらる

坂上是則

とーのたあはのまのたよあさうけいあらしは

曾根好忠

蚊を火の小敷更かこの下もいさくあやあかへ

ゆのうとらあかからあひしあともあまのなる

鳥羽院御時人のよのこと風よすうを

いさとよとあはるよ 権中助御時

よひは八まのあからあひあのおふたふあひさ

百首歌あつ時 権政太政大臣

からとあひゆのあまようらあのおうとあまあ

影くらん

或子門親王

あつたよあはれあはれあひあつたあつたあ

権中助之長方

此のちのついでにうらやまをいふはあはれなり

はむろ入道前関白太政大臣家齊合

権中納言師俊

ついでに人の心うらやまのちのねのねとていふ

和奇不齊合よあはれなり

持政太政大臣

那波人いさるえあはれをいふはあはれなり

源右衛門つとむ

白鳥右衛門俊成

あまのうらやまはあはれなり

むらさ

相換

あまのうらやまはあはれなり

業平卿

あまのうらやまはあはれなり

あまのうらやま

恋ごのこも海の浦へ今かあまりあけ袖のそとをちや

恋奇とてある 二條院瀆政

みづめと入ぬるぬのまきし袖うはのそよは折ぬか

年よとあまの恋とていつらん成よと侍り

後頼朝

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

恋恋のらん 前太政大臣

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

たふ将よ侍りり内家よ百首奇合し侍りりよ

恋恋のらんを 后太政大臣

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

恋奇のこもるの浦のこもいこも

後徳光

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

後徳光

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

恋恋のらん 近承院御奇

あまのこもるの浦のこもいこもあまのこもいこも

見はれぬるあまのこもいこもあまのこもいこも

花園

人まきぬまよは秋芳は志のめた君のめふうくを海よりたり

彭らた

神祇伯躬伴

物思ふといぬまうい思ふといふく袖のつてを

悲恋の心代

清浦躬下

人まきぬまよは秋芳は志のめた君のめふうくを海よりたり

和奇可濟合よ悲恋の心代

友原雅純

まねぬまよの山の雲のせかろくあわとまよふて

千二百番奇合よ

左衛門督通光

かゝるまよは秋芳の山の雲のせかろくあわとまよふて

二條院瀧波

おとくは秋芳の山の雲のせかろくあわとまよふて

和奇可濟合よ依悲恋の心代

喜文捨太史云繼

志はうよ思はつて心の前月しせせせよとまよふて

彭らた

仁濃

人まきぬまよの山の雲のせかろくあわとまよふて

あけは師

まねぬまよの山の雲のせかろくあわとまよふて

水戸侯の志十又首濟命ノ夏迄也

持政右政右

弟ノ夏迄の事ゆきさうのねとことそね房をいひ
入道前周白太左衛門守時百を奇人く
よもせ侍りりよ忠志の心也

太宰大貳重家

後の世はさきと海しひりて志をりやせ海しは深袖
大袖成道少つりつるれつさうりり女
と後の世はさきのうこのうりりしつりしつり

清人あす

とつこのかよつりつるくさうて後の世は乃ね海にを
前大徳之隆房中將よ侍りり時右近馬場の
ひさりの目ゆるしつりつる物見侍りり女車
よもつりつり

前大徳之隆房

かよつりつるくさうて後の世は乃ね海にを
いひのうらやゆきさうのねとことそね房をいひ
千二百番言合よ 左衛門守時百を奇人く
かよつりつるくさうて後の世は乃ね海にを
あつりつるくさうて後の世は乃ね海にを

皇太后文集後成

思ひわらうとこの元まじしに後とてまゐる

水衣歌忘十を濟合

拾遺を改大旨

ふらのわさの小衣おとあしを月日や拾うけり

歌言出真とらんら

友原忠之

思ひわらうと月日この月日ふいふ思ひを

百首歌すし時 皇太后文集後成

を事いかに此の里乃は乃の店志のよあはるる

入道前周白右大臣は傳々時百首歌すし時

らしとれよは業業のかりととあひりつと袖乃らん

都らん 友原え真

あつとあつとらんらんらんらんらんらんらんらん

あつとらんらん 友原義孝

いれよのあつとあつとあつとあつとあつとあつと

崇徳院は百首歌すし時

大炊御門右大臣

我思ひわらうとこの元まじしに後とてまゐる

入道前周白家は百首歌すし時

いふらば

基輔の長 友原基俊

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば
久遠のいふらばとて伝わり

友原の長

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば
海邊のいふらばとて伝わり

友原の長

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば
折返の長いふらばとて伝わり

友原の長

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば

十の百首奇合 折返の長

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば

百首奇合 二條院讃歌

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば
折返の長いふらばとて伝わり

友原の長

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば
いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば

いふらば 友原の長いふらば 友原の長いふらば

入道前関白太政大臣家奇合

道国法師

印よわみさ乃父のうりりといくくかまてとあよこりや

百首乃奇合中

或子内親王

身よそとむん物成願つららわらふしの袖のきこり

ゆきひゆりり女のあよみてゆりけきこ

うきけね

後徳大寺左大臣

こあそはあやうらるとあよこしわらわらおれわらわらぬ

千二百首奇合

摂政太政大臣

男よそらたのわと親しきさかんあやうらるとさるりやと

都いらに

大御之実宗

夏乃中よりとみつる秘えしうつささきうと袖あき

又十首奇合

前大御之忠良

あよとれし後芽のあよれけてま葉ゆりし夜あら

蒲河忠亮

正三位経家

あひあらしそとの川流し事こんあらしの秋よあらしあ

あふみかしの結衣のころんげ

頼茂重政

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

中文字家音

家隆朝臣

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

持中助之俊忠

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

百首歌中よ恋の心げ

惟明親王

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

右衛門督通具

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

皇太后文家後成女

あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ
あふみかしの結衣のころんげ

定家朝臣

床の敷物への水漬傳友じしむとぬ人の舞りよ
折段を政大官家百首奇合と曉恋

友原定家部下

ほろろのあひまやうつら月とそとるのえ
宇治をわ恋とらまをたのこしけう

友原定家部下

袖のうしろに月をそとるもくつと
久恋とらまを 哉前

夏にのひの糸のこもあは思ひはじむやう
家百首奇合と傳りよ新恋とらまを

折段を政大官

いふ我はこまやまの河袖よもらうおもわん
友原定家部下

ふとぬぬの舞りよ白波のおの種のをその夕暮
思ひのこもあは

白鳥居交を後敵

うらみと我のこもあは思ひはじむやう
折段を政大官

あまのこもあは思ひはじむやう
折段を政大官

折段を政大官

あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
八條院言舎

はなはなとていふはなはなとていふはなはなとていふはなはなとていふ
おちばな

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに

新古今和歌集卷第十三

徳奇三

中関白がしとあはれなるは

儀同三司母

あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに

あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに

あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに
あまらねるよとあまらねるよのついでにあまらねるよのついでに

人乃...
...
...

廉義公

時乃...
...
...

百首寄よ

或子に報よ

おま...
...
...

次中...
...
...

ゆ...
...
...

源正信卿下

あ...
...
...

お...
...
...

お...
...
...

逢...
...
...

三條院女御人左近

人...
...
...

貞凡

あ...
...
...

実方卿下

か...
...
...

あ...
...
...

伊勢

あ...
...
...

おそく袖のあはれい〜〜ま業の玉は敷き
二條院乃沖時あり月よりまじりするまじり
まじり

二條院續文

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜人の袖
都らら

あはれい

而新乃〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜人の月
後羽衣のら

折政を改大旨

又とまんね〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい
女のあはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

女のあはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

二條院白女御入門乃ありあはれい〜〜あはれい

二條院御奇

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

はせり入道前園白を改大長家の奇命よ

友原道澄

あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい〜〜あはれい

むらた

小侍候

物よひまより種のをりきけらわぬ別乃を無きもの

若原知家

ふさしとふさし別はあやせんれとむいひいああねい

石行法師

ふさしとふさし別はあやせんれとむいひいああねい

清原元輔

あふ井川よとの水のさくさくふさふさあやあやあやあや

あふちちちちちちのあつちちちちてけけけけ

清人志了

夕暮し夜明けあつちちちちあつちちあつちちあつちち

あつち師人よ首首首し海と竹たつよ

定家卿下

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

無事にて

右と天官

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

水あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

と

折政右大臣

あつちあつちあつちあつちあつちあつちあつちあつち

音風

文門卿

徳守あまの宿の座乃うへ表くよの福えん
重く

やゆら乃後のよふとちりよとて袖あまの
貫く

ひけそくふんをよほとく名もたもとよあむつら
まつら〜ら女もひつらつらよむしすら
男れ入あらしい〜とて恨らつらあむら
けさつらとつらつら 平定文

偽ともは乃柱乃ゆあもたけつらく我とおもは
人よつら〜ら 鳥羽院御奇

いんらり〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

行思のん文 入道前園白老政大臣
新らつ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
枳ぬた政大臣家百首奇合よ契悪乃ん文

前大僧正慈音

あまのちた〜らの偽もたね〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
女よ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
けさつら〜ら〜ら 左衛門督家通

ほし〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
あまのじつすつらつら女らつらすつらつら〜ら

新古今和歌集卷第十回

惠子回

中将よ侍りし時女よつりしけれ

清慎云

よあはれとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

云

よき人よ

あはれと思ひかきりし人よいとねとのかき啼

女お涙膝よほりしつら

あはれとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

うしろ事侍りし時女よつりしけれ

らるるよつりしつら 清慎云

別てあはれとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

云

惠子女王 贈皇后女母

あはれとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

入道折政久しとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

出侍りし時女よつりしつら

右近大将道深母

あはれとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

ゆき久しとあはれと思つて人よいとねとのかき啼

院のゆきよ 陽明門院

さまさまのふたー月新方おむらきふらきむらきむらき
むらきむらき

中務

むらきむらきむらきむらきむらきむらきむらき
むらきむらき

後人

あまのむらきむらきむらきむらきむらきむらき
むらきむらき

人よりのむらき 紫式部

入もむらきむらきむらきむらきむらきむらき
むらきむらき

むらきむらき 友原鍾衡

とむらきむらきむらきむらきむらきむらき
むらきむらき

後徳大寺なる旨

あまのむらきむらきむらきむらきむらき
むらきむらき

おははは

月のやうにのちかちか思ひをくちかちか
くちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
物思ひてなつて思ひをくちかちか思ひをくちかちか

八條院高倉

くちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
百首歌中よ 太上天皇

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
千二百番奇合よ 持政大臣

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
我思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
指中細き玉

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
右衛門持通光

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
右衛門持通具

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか

思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか
思ひをくちかちか思ひをくちかちか思ひをくちかちか

おはは

持政大臣

宗道法師

あぬ人と思ひ候ある庭のおの道々末を松よまらる

野らん

左衛門督通光

尋てと袖よくしつゝとてさうしつゝとて道の流れかた

友原保季卿下

かみとてかみのかみとてははははとて首の庭はかみ

法橋行通

あぬとて庭の流芽よとてとてとて道のいふとてとてとて

折政右大臣家百首詩合下

定家卿下

あぬとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

家隆卿下

風布のあふよとてとてとてとてとてとてとてとてとて

百首歌集一冊 折政右大臣

いんさうとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

千六百首詩合下 家隆卿下

あしひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

二條院沖時數書の奇ありたりし

刑部卿花兼

あしひとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

何そあふ恨んをうらむこころなるをよ秋風を
題不名 讀人不知

何よいに秋の移り移るあはれにむしのいづまを
あけは秋

あはれしよ人のまをうらむの思ふ家の秋のうら
入道兼用白太政大臣家奇合

我意の今にわたりと夕暮れおさく凡のまをうらむ
題不名 或子門親王

しるも人のあふうらむの思ふ家の秋のうらむ

家奇合 折政右政大臣

しるも物や人の思ふ家の秋のうらむ
前大僧正慈圓

あはれあはれとあはれんしよ人の思ふ家の秋のうらむ
和奇前と奇合持し過不達意の心代

家奇合

あはれあはれしよ人の思ふ家の秋のうらむ
水之頼恋十又首奇合

太上天皇

あはれあはれしよ人の思ふ家の秋のうらむ

杖忘恋の心と ちと天宮

袖を染もあなを消へりてはさかづき

定家卿下

しづかにあはれをいふは我がまことあはれ

家隆卿下

あはれをいふは我がまことあはれ

皇太后文更後成女

あはれをいふは我がまことあはれ

持政公及大臣家百首奇合より恋

前大僧正慈海

あはれをいふは我がまことあはれ

百首奇の中より 或子門親王

あはれをいふは我がまことあはれ

あはれをいふは我がまことあはれ

暁恋の心と 前大僧正慈海

あはれをいふは我がまことあはれ

千五百番奇合より 持仲助三経

あはれをいふは我がまことあはれ

定家卿下

あはれをいふは我がまことあはれ

水々顔恋十八首并合

友原雅澄

夕々人のおと影より清見の袖は関の浪のかしら
皇女后文女

ありより時を袖は枯けてしりしりと結とせり
かみあゝ宿のるきものしりしりと結とせり

新古今和歌集卷第十

恋奇八

水々顔恋十八首并合

友原定家下

白木の袖の利よあおらてるに心久の袖は幾か

友原家隆下

おし入身は袖の葉は秋の葉多のあしと心や本松は風

前大僧正意圖

野の露はあしと心やあしと心は袖よりさう秋のとあ

都らす

友近中将三衛

女河原子女

わが女ようつろひて思ひをいひて
善乃女女のいふゆかりてあはれつら

大中臣神宣卿下

わが女ようつろひて思ひをいひて

むら

床蓮法師

源氏物語のいふゆかりてあはれつら

百首詩あり

家隆卿下

あはれつら思ひをいひてあはれつら

むら

基俊

ゆつろひてあはれつら思ひをいひて

ふふ言書合

皇太后文基俊成

あはれつら思ひをいひてあはれつら

むら

定家卿下

あはれつら思ひをいひてあはれつら

和歌百首合下 遇不逢忘のいひ

皇太后文基俊成

あはれつら思ひをいひてあはれつら

むら

或子の親王

あはれつら思ひをいひてあはれつら

るふくろ世の英と云ふていふうらむ方の果をくらふ
宗徳院より首首奇なりり時志奇

白鳥居文更後成

思ひよみし面影をそそぎて恋せうもんねをさ
そのしらべ 相換

かきおぼしういなきまじりて来ぬ袖よ刺しあはれ
かここのくくもはらうらうらとてやいふは
ふらり

ふ門侍

はしりていふし書にしはうらうらとていふは
びくんく人奴養宗のきこよもらしてまじ
あつりていふし書にしはうらうらとていふは

あつりていふし書にしはうらうらとていふは
年比あつりていふし書にしはうらうらとていふは
あつりていふし書にしはうらうらとていふは

友原仲文

花さぬ朽木の根のそゆ人のいふりたれし思ひつらん
くさくさなぬな 土師色煙籠母
よつりていふし書にしはうらうらとていふは
忠盛お下りていふし書にしはうらうらとていふは
あつりていふし書にしはうらうらとていふは

又節のあらにそえ見たり人よよのまじり

らり

友原惟成

よき女にそらりてはなほまじりてはなほの日記のふけて思

むららに

友原え真

よき女にそらりてはなほまじりてはなほの日記のふけて思

舟文女所由りり侍りりよき女にそらりてはなほまじり

天馬御奇

水のうのうれをいひておもしろくわらうてはなほまじり

いさしききりより人のいさし

鎌佐云

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし

むららに

権中助之教志

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし

友原え真

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし

系議官

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし

むららに

友原惟成

かきつきのつとぬ歌の絶えいさし命とよしくいさし



